

図書館だより



11月号

2022年11月24日
安田小学校図書館

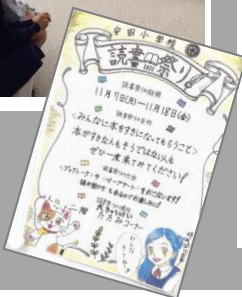
休み時間のカウンターは、たくさん「知りたい」と思う子どもたちでにぎわいます。国語のプリントで読んだ小説の続きを読みたい、友達へのプレゼントを手作りしたい、話題になっている新幹線について知りたい……図書館はその前向きな気持ちを応援することができる場所です。たくさん利用してほしいと思っています。

自分の「知りたい」以外にも、おうちの人の「読みたい」本を探しに来る子どもも多いです。おうちの人のために本を借りてあげるといった体験は、子どもにとってワクワクする特別な出来事なのではないでしょうか。



ハロウィンにちなんだクイズを友達に出したいと、休み時間に熱心に調べています。

読書まつり



新校舎になって初めての読書まつりは、本をもっと好きになってもらうことを目的に、図書委員会が読み聞かせやブックトークを行いました。大休憩になると全校放送がかかり、子どもたちが「紙芝居を聞きに行こう！」と誘い合って集まってきました。

大人ではなく、委員会のお兄さんお姉さんが本を読んでくれたのが嬉しかったのか、低学年の子どもが「明日は何を読んでもくれるの？」「今日のお話面白かったよ。」と図書委員に声をかけていました。お話と子ども、委員会と子どもの距離がぐっと近づいた二週間でした。

図書の時間は読書郵便に取り組んでいます。まず2・4・6年生が一つ下の学年に本を紹介するお手紙を書きました。

「これは難しいかも」「怖いお話はいやかな？」と、一年前の自分を思い出しつつ相手の気持ちを考えて丁寧に本を選び、文章を練りました。一生懸命書いた手紙にどんなお返事が来るのでしょうか。



先生なにがおすすめ？

図書館では先生と子どもが本をはさんでおしゃべりする姿がよく見られます。「先生も本が好きなんだね」という子供の声が聞こえてきそうです。今年度安田小学校に着任した先生はどんな本が好きなのでしょうか。小学生におすすめの本を聞いてみました。



川富先生

『かしこいうさぎのローズバッド』

ルドウィッヒ・ベームマンズ/著 小宮由/訳
大日本図書



ローズバッドが読んだ本には「ウサギは臆病ですぐに逃げる」と書かれていました。他の動物は立派でかっこいいのに！腹を立てたローズバッド、まずはクジラのもとへ向かいます。ウサギの力を見せつけるために考えた作戦って！？

村中先生

『とんび』

重松清/著 KADOKAWA



昭和37年、瀬戸内海の小さな街の運送会社に勤めるヤスに息子アキラ誕生。家族に恵まれ幸せの絶頂にいたが、それも長くは続かず……高度経済成長に活気づく時代と街を舞台に描く、父と子の感涙の物語。

清原先生

『エルマーとりゅう』

ルース・スタイルス・ガネット/作 わたなべしげお/訳
ルース・クリスマン・ガネット/絵 福音館書店



1963年の初版から子供たちに読み継がれているおなじみのシリーズの2作目です。『エルマーの冒険』で無事にりゅうを救い出したエルマーですが、うちへ帰る途中に寄ったカナリア島でまた大冒険が始まります。

上杉先生

『人にはどれだけの土地がいるか』

トルストイ/原作 柳川茂/文 小林豊/画
いのちのこば社フォレストブックス



土地さえあれば幸福になれると考えた農夫のパホームは、より広い土地を求めて一心に働いた。がんばって稼いだ、耳寄りな話に飛びつき、何倍もの土地を得ていった。その最後に、彼を待っていたものは……？

森岡先生

『ロサリンドの庭』

エルサ・ベスコフ/文 菱木晃子/訳 植垣歩子/絵
あすなろ書房



病気で、たった一人で寝ていたラーシュ・エリックのところへ現れた女の子ロサリンドは、壁紙の花に命を吹き込む不思議な力を持っていました。彼女と仲良くなり元気を取り戻したラーシュでしたが、突然の別れが二人にやってきます。

中田先生

『最後の講義 完全版』

どうして生命にそんなに価値があるのか？
福岡伸一/著 主婦の友社



「生命とは？生物とは何か？」を問い続けて数十年。「1年前の自分と今は別人。実は完全に入れ替わっている……」。固定概念を揺さぶる目からウロコの刺激的なメッセージが連発します。福岡ハカセと「生命」を考える知的エンターテインメント、ここにあり！